

令和5年秋の外国人叙勲

台湾人受章者に対する勲章伝達式の実施について

令和5年11月3日、日本政府は令和5年秋の外国人叙勲受章者を発表し、台湾から林曼麗・台北教育大学芸術・造形デザイン学部名誉教授が日台間の友好関係の増進に顕著な功績があったとして受章されました。令和6年3月28日には、片山和之・台北事務所代表より勲記及び勲章の伝達を行いました。

日台関係の発展のために長年にわたり献身的なご尽力をされてこられた林曼麗名誉教授のご貢献に衷心からの敬意と謝意を表します。

林曼麗氏

勲章：旭日中綬章

主要経歴：台北教育大学芸術・造形デザイン学部
名誉教授

功労概要：日本・台湾間の学術交流及び相互理解
の促進に寄与



受章者のことば

日本台湾交流協会の片山代表、代表夫人ゆかりさん、交流協会の皆さま及び本日ご臨席のすべてのお客様と友人の皆様こんにちは！

まず、日本政府よりこの度、旭日中綬章を賜りましたことに感謝します。これは、私とともに頑張ってきた仲間たちにとって、本当に励みになる受章です。思い返せば1978年、初めて日本の国土を踏んだ当時の私は、45年後にこのような名誉ある勲章を頂けるとは夢にも思いませんでした。1978年から1988年の日本留学時代は、まさ

に「ジャパンアズナンバーワン」と呼ばれた日本の黄金時代であり、私の人生の中でもかけがえない黄金の10年でした。日本の社会と経済の高度成長期において、私は世界の中でも最も先駆けで最も豊かな文化芸術活動に触れ刺激を得ることができました。日本の最高学府である東京大学のキャンパスにおいて、その後の学術研究人生での仲間となる多くの同志に出会うことができました。また、東京大学で最も厳しい教授と言われていた板垣忠彦先生にも指導教官として出会いました。板垣先生の厳しくも堅実な指導の下、私は東京大学の教育学の博士号を取得できたばかりでなく、博士論文は東京大学出版会の審査を通過して出版され、私のその後の学術分野の研究の基礎となりました。こうした日本での10年の留学生活の中で最も意外な収穫は、チャレンジングで充実したこの年月の間に、結婚をして二人の子どもに恵まれたということです。私の二人の娘とそのお婿さんも本日の式典に出席しております。

私の人生で最も重要な人が3人います。一人目は私の母です。母は、時代に束縛されず、家庭を大事にしつつ、自身の夢も諦めなかった女性です。母の応援なくして、私は日本での留学を実現することはできなかったと思います。二人目は、指導教官であった板垣忠彦先生です。先生の妥協なき厳しい指導なくして、東京大学の博士号を得ることはありませんでした。三人目は、私の夫で医者である林宗徳です。彼の包容力と尊重なくして、家庭の維持と自身の学業という夢の両立はかないませんでした。三人ともすでにこの世にはいませんが、いつまでも決して忘れません。

芸術を学ぶ人間にとって、日本は、伝統と現代が共存する魅力にあふれた国です。日本で留学した10年間、多くの収穫がありました。当時、「留学は移民するのと同じ」という風潮もありましたが、私は学位取得後迷うことなくすぐに台湾に戻り、現在の国立台北教育大学で教鞭を取り始めました。この大学の創立は1895年、日本統治時代の最初に設立された高等教育機関であり、植民地時代にはエリート教育に力を入れており、台湾の近代文化の発展の源泉、台湾近代美術史のゆりかごともいえる存在でした。同大学を選んだことで、台湾に戻ってから40年近くに亘る教師生活と日本とのご縁がスタートしました。大学で教える傍ら、台北市立美術館、国立故宫博物院、国家文化芸術基金会といった職位を担いました。また、国立台北教育大学北師美術館を創設、社会への還元と国際交流を深めました。特に、台湾近代美術史の研究調査と企画展示を通じて、日本の学術機構や美術館と緊密な学術研究ネットワークが形成され、台湾と日本の相互理解や認知を深めることができました。現代アートの交流や協力の面でも、作品の共同製作という手法を取ることで、国籍や人種、文化を超えたより深い相互理解や尊重へとつながりました。博物館事業の面でも、複数の博物館との協力で事業を企画したことで、文化交流が促進されました。

台湾へ戻って40年近くの間、仕事で世界中の多くの国を訪れて文化交流を行いました。これまでの人生を振り返っても、また仕事の面から見ても、日本はやはり最も特別な存在です。長年に渡る私と日本の先生方、同級生、友人との関係は、時間や地理的な距離で疎遠になるのではなく、逆に益々深まり、新たなネットワークがさらに広がっています。人と人との誠実な信頼関係が結んでいるからこそ、私はさらに枠を超えた学術・芸術・文化など各領域の日台交流を計画することが可能となり、幸せなことにそれがさらに相互理解や尊重の深化へとつながっています。

私が今日ここで最も伝えたいのは、心からの感謝の気持ちです。文化交流は一個人で成しえるも

のではありません。何らかの成果が出て評価を得られたとしたら、それは政府機関から民間企業に至るまで多くの方々が協力して取り組んだ成果だと思います。陳水扁・元総統に感謝いたします。台北市長、総統の職に就かれていた際、私に最大の舞台を提供し全幅の信頼を置いてくださいました。文化部長を歴任された鄭麗君部長、李永得部長、現在の史哲部長に感謝いたします。全力で私を支持してくださったおかげで、多くの重要な文化交流計画を実現することができました。各機関で一緒に働いたすべての仲間たち、同僚や学生たちに感謝いたします。あなたたちが情熱と努力を注いでくれたおかげで、私たちの夢がかないました。民間企業のすべての大切な友人たちに感謝いたします。私にとっての最強の応援団でした。あなたたちの協力のおかげで、私は芸術文化という道を希望と幸せと共に歩むことができました。そして、皆さんと一緒に歩いてくださったおかげで、私は勇気をもって理想と夢を追求することができました。そして、わざわざ金沢から今日の伝達式にご出席くださいました中川先生にも、心から感謝しています。中川先生、ありがとうございます。

最後に、今回の受賞に際し日本政府と叙勲伝達式を執り行ってくださった日本台湾交流協会に改めて感謝申し上げます。また、本日も臨席を賜りましたすべてのお客様と大切な友人の皆様に感謝申し上げます。皆様の益々のご成功とご健勝とをお祈りいたします。

